

## ドイツのPISA調査結果と反響

玉川大学准教授 坂野 慎二

### ドイツのPISA調査結果の推移

順位	2006年	2003年	2000年
科学的リテラシー	13位	18位	20位
数学的リテラシー	20位	19位	20位
読解力	18位	21位	21位

### 1. 2007年12月4日の連邦教育研究省及び常設文部大臣会議の声明

#### PISA2006：良い傾向が継続

ドイツの生徒はPISA2006で改善傾向が継続している。

総評：常設文部大臣会議（KMK）代表と連邦文部大臣は、「正しい道にあるが、手綱を緩める段階ではない」としている。

- ①ドイツの生徒は継続的に調査された3領域（読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー）の中で、科学的リテラシーがOECD加盟国の平均以上の8位である。
- ②しかし読解力と数学的リテラシーは、ほぼ中位であるが、OECD加盟国の傾向と異なり、多少上向いている。
- ③PISA2000以降のすべての調査領域における肯定的な発展は、成績下位層及び上位層の生徒にみられる。
- ④ドイツはOECD加盟国の中で数少ないランクを上げた国の1つである。
- ⑤生徒調査においても、改善は認められる。15才で読書をする者の割合が増加し、読書をしていない者の割合が低下している。
- ⑥こうした改善にもかかわらず、依然として生徒の成績分布の幅の広さという問題、及び成績と進学に対する社会階層の影響の問題が明らかである。これは特に移民の背景を持つ生徒に顕著である。

①の補足。OECD加盟国平均で科学的リテラシーの成績下位層は19.2%であるが、ドイツでは15.4%である。

②の補足。PISA2000で読解力は489点であったが、PISA2003及び2006では495点であった。数学的リテラシーでは、OECD加盟国平均で498点であったが、ドイツは504点でOECD平均を上回っている。

### 2. ヘッセン州の反応

11月末に日本でいうPIRL（ドイツではIGLU、4年生の調査）の調査結果が公表された。これも肯定的であった。

ヘッセン州の文部大臣は、同州の理科教育の成果であると自讃している。同時に、課題として社会階層の影響が強いことを認めている。そのため、移民の背景を持つ子どもへの支援を強化することを述べている。

また、PISA調査は特にやる気を持ち、十分な養成を受けた教員と最大限の個別支援が重要であることを明らかにしている。このことは、分岐型学校制度は子どもの能力に適しているという文脈となっており、総合制学校生徒の科学及び数学の結果が、実科学校よりも低いことをその根拠としている。

ヘッセン州は、他州と同様に入学前のドイツ語の準備学級に着手するとともに、卒業までの読解及び科学の強化、並びに教員養成の改革を進めている。

### 3. マスコミの反応

インターネット上に示されたマスコミの反応について整理する。反応は改善されたとする報道（ベルト紙等）とまだまだという論調（FAZ）とに分かれている。

#### （1）「まだまだ」論調

FAZ（フランクフルト・アルゲマイネ新聞、最大手）ネット

概要：「研究者はドイツの改善が極限定的と評価している」として伝えている。具体的には読解力と数学で測定できる前進がないとしている。もっとも科学における実用的な授業については喜ばしいとしている。

また、移民の背景を持つ子ども、いわゆる「第二世代」はドイツを含め、先進国で共通の問題であるとしている。ドイツで生まれた移民の子ども達は、ドイツの子ども達と比較するとおよそ2年半分学習が遅れているとしている。同様の課題がベルギーにもある。親の1人が外国人である子どもの科学の成績は平均点を25点下回っている。移民（第一世代）の子ども達は79点、第二世代の子ども達は95点下回っている。

#### （2）「改善」論調

ベルト紙（Die Welt）12月5日付け

「ドイツの生徒達はPISAの評判よりも良い」

近年の改革が効いてきた。最新のPISA調査でドイツの生徒達は、前回調査で言われていたよりも比較的良い結果だった。しかしひどい学校制度の根本問題は未解決のままである。

ドイツの生徒は世界トップからはまだ離れている。しかしプレントツェル（ドイツチームの代表）は、成績が「意味のある成長」ととげていると述べている。科学的リテラシーは2000年調査では487点で20位であり、OECD加盟国の平均以下に属していた。2003年調査では15位（502点）へと上昇し、OECD中位となった。現在は平均を遙かに超えて516点となり、OECD加盟国30カ国の中で8位（全体で13位）となっている。

数学でも読解力でも進歩が証明されている。読解力は2000年調査では21位でOECD加盟国の平均以下であったが、今回は14位へと上昇した。数学でも20位から14位へと上昇して現在はOECD加盟国中位となった。

問題は依然として成績と社会階層の密接な関係である。これは特に移民の背景を持つ子ども達に当てはまる。